

# 令和2年度 学校自己評価システムシート ( 県立深谷高等学校 )

目指す学校像	学力の向上、部活動の振興に重点を置き、地域から信頼される進学校を目指す。 文武両道の精神に基づく心豊かな生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 確かな学力の定着を目指し、学習指導の工夫と主体的学習態度の育成を図る。 2 生徒一人一人の進路実現を叶える支援の充実を図る。 3 基本的生活習慣の確立を図り、部活動、学校行事の活性化を支援し、豊かな心を育む。 4 保護者・地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6	名
	生徒	3	名
	事務局(教職員)	6	名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<b>【現状】</b> 入学してくる生徒の学力や学習意欲に幅がある。臨時休校長期化が学習意欲低下を招いている。 <b>【課題】</b> 個に応じた学習指導と資格取得等により、学習意欲と基礎学力を向上させ、自己肯定感を高める必要がある。	・授業の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着・向上を図り、学ぶ姿勢を身に付けさせる。	①習熟度別授業、少人数授業等によるきめ細かな授業を実施し、一層の基礎学力の定着を図る。 ②全教室に設置されたプロジェクトやタブレット等、ICT機器を活用した授業を推進する。臨時休業期間には、Classi等を活用した動画配信を実践する。 ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、グループワーク、ペアワーク等により、協調学習等の手法を用いた「学びの改革」を推進する。 ④教職員研修会の開催、校外研修会への参加、授業公開期間での研究授業、教員相互による授業見学により、授業の工夫改善を行い、わかりやすく生徒のやる気に火をつけさせる授業で学力向上を図る。 ⑤各種検定試験を積極的に受験させる。	①基礎学力診断テストの結果が向上したか。 ・成績不振に絡む転退学者が減少したか。(目標50%減) ②動画配信を実施できたか。 ③④アクティブ・ラーニングの授業を実践できたか。 ・教員間で複数回の授業を見学できたか。 ・「分かりやすい授業」のポイントが上がったか。 ⑤検定試験を受験したか。	授業改善や主体的に学ぶ授業の実践で基礎学力の定着と学びへの意識の向上を図ることができた。 ①習熟度別学習、少人数授業、考査前補習、夕やけ学習ルーム等で、基礎学力の定着を図った。 ・欠点保有者 昨年比1学期40%減、2学期20%減 ・転退学者の大幅減少(44%減、1/31現在) ②臨時休業期間中、147本の学習動画を配信した。 ③総合的な探究の時間(1・2年)で生徒が主体的に取り組む探究活動をスタートさせた。 「わかりやすい授業である。(アンケート)」 H30:78%→R1:79%→R2:84% ④教員研修会(onlineツール活用、探究、特別支援教育、人権教育等)で教員の資質向上を図った。 ⑤英語検定のべ64名受検(2級2名、準2級7名合格)漢字検定のべ10名受検(準2級2名合格)	A	・基礎学力の定着を支援する様々な取組を引き続き行うことが求められている。 ・主体的・対話的で深い学びの実現のため、生徒に探究の推進、教員の研修等、生徒のやる気に火をつけさせる取組を行う。	・生徒一人ひとりの実情に応じた学習指導を行っている。教員の資質向上にも取り組み、生徒の学習意欲をさらに喚起し欠点保持者及び転退学者の大幅減少という大きな成果を上げた。 ・生徒自身の意識改革と教員のわかりやすい授業実践が数値として出ている。これを定着していくのが課題である。	
2	<b>【現状】</b> 多くの進学者が指定校推薦及びAO入試等での進学である。 <b>【課題】</b> 早い段階から具体的な将来の進路目標を持たせるための仕掛けが必要である。上級学校進学後も学業についていける力をつける必要がある。	・学校と家庭との連携を密にした組織的な進路指導により、生徒全員の進路実現を目指す。 ・特進クラスの活性化	①二者・三者面談を実施し、生徒に寄り添い、一人ひとりの進路意識の向上を図る ②各学年が進路指導部と連携し、生徒の実態に合わせた進路行事を実施する。 ③Classiの一層の活用を図り、生徒に振り返り活動を行わせたり、学校と保護者の連携を密にし、生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせる。 ④ハローワークなどの外部機関と連携し企業の求人開拓を積極的に行うほか、地域の支援を受けて、就職希望者全員の内定を目指す。	①二者・三者面談を学校全体で行い、生徒の進路意識を向上させることができたか。 ②③生徒・保護者の学校の進路指導の取組の満足度が向上したか。 ④学校幹旋希望者の第1希望決定率の向上、内定100%を達成できたか。	コロナ禍の極めて厳しい状況下、きめ細かな進路指導を実施した。 ①行事予定を工夫して三者面談を実施した。 ②年間を通じ各種ガイダンスを実施できた。 「きめ細かい進路指導である。(アンケート)」 生徒 H30:75%→R1:77%→R2:86% 保護者 H30:79%→R1:76%→R2:85% ③臨時休業期間にClassiで学校生活を支援した。 ④ハローワーク等と連携し就職を支援した。 学校幹旋:就職決定率97%(1/31現在)	B	・3年生で主体的に行動できるよう低学年のうちから進路意識を向上させる取組を行い、希望する進路の実現を図っていく。 ・特進クラス等、進路支援の取組を整え、一般入試でも合格者が出るよう指導体制を強化して欲しい。	・生徒のニーズに応えるきめ細かな進路指導を行い、評価指標「内定100%の達成」に近い内定率を達成した。また、一般受験で大学を目指す生徒の増加等、特進クラスの活性化策も効果が現れてきた。達成度は「B」評価になっているが、「A」評価でもよいと思われる。 ・一般入試でも合格者が出るよう指導体制を強化して欲しい。 ・コロナ禍の厳しい状況にもかかわらず、よく取り組んだ。例年以上に細やかな進路指導ができていと思う。	
3	<b>【現状】</b> 基本的生活習慣の大きな乱れはないが、整容指導、時間厳守や挨拶等がまだ不十分である。部活動の定着率が下降している。 <b>【課題】</b> 家庭との連携を強化して学校生活の様々な場面で整容、挨拶の励行、時間厳守等の基本的生活習慣を確立し、社会生活のルールやマナーを継続的に指導する必要がある。	・基本的生活習慣の確立と学校行事や部活動の体験を通して、豊かな心を育成する。	①年度当初から正門指導と各学年、授業、ホームルーム等での全教員が一体となって組織的な整容指導、家庭との連絡を密にして、時間厳守の大切さを教え、遅刻指導の徹底を図る。 ②生徒の活躍を評価し、自己肯定感を高める指導を行う。 ③魅力ある部活動を推進し、加入率や実績の向上を図るとともに部活動等で地域住民との交流事業を実施し、豊かな心を育む。 ④清掃・整理整頓の徹底。 ⑤専門機関と連携した教育相談など、一人ひとりに寄り添った指導を充実させる。	①頭髪や身だしなみ、時間を守って行動したポイントが向上したか。遅刻者数が減少したか ②昨年を超える生徒表彰ができたか。 ③部活動加入率や部活動実績が向上したか。地域との交流事業の実施や参加者の高い満足度がえられたか。 ④清掃をよくやり、学校をきれいにしているポイントが向上したか。 ⑤課題解決に向けた生徒への支援ができたか。	粘り強い教員の指導により、生徒の基本的生活習慣は徐々に確立されてきている。 ①「頭髪・身だしなみ・時間守れた(アンケート)」 H30:90%→R1:83%→R2:93% 遅刻者数は昨年同期比24%の減少 ②生徒表彰 H30:113人→R1:97人→R2:125人 ③部活動加入率 H30:63.8%→R1:68.5%→R2:74.1% 青年会議所と連携し、地域のイベントに部活動生徒が参加した。(吹奏楽部、美術部) ④「清掃よくやり学校きれいにした(アンケート)」 H30:80%→R1:79%→R2:88% ⑤教育相談専門機関の活用、SC12回、SSW9回。特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによる研修会を実施し特別な支援の理解を深めた。	A	・基本的生活習慣の定着のための指導を繰り返しているが、まだまだ向上させることができる。引き続き粘り強い指導を行っている。 ・自転車の乗り方マナー向上が課題である。	・生徒指導は学校の秩序を根幹で支え貴校の取組は模範的である。本年度は例年課題である遅刻者大幅減少を達成した。生徒表彰増加、部活動加入率上昇、校内清掃・美化活動への生徒参画意識の向上等、良好な結果である。 ・頭髪や身だしなみ等の厳しい指導は必要ない。高校生としてふさわしい身なりかどうか自分で考えさせればよい。生活の乱れの根本にある家庭での問題の有無を掘り下げ相談にのってあげて欲しい。 ・生徒が個であるときはマナーは守れているが、個から多になるとマナーが乱れる傾向がある。	
4	<b>【現状】</b> 保護者、中学校、地域等へ学校の広報を実施しているが、まだ不足しているさらに学校理解度を高める必要がある。 <b>【課題】</b> 学校を積極的に公開、発信し本校の魅力をアピールし、生徒募集に結びつける必要がある。	・本校の教育活動の情報発信を充実させ、魅力ある学校づくりを推進する。	①一番の地域の声である学校評議員会、学校評価懇話会の意見を学校経営に反映する。 ②学校ホームページ、「ふかこう通信」等を工夫し中学校や地域住民等への情報発信を強化する。 ③母校訪問の継続実施、学校説明会等での学校PRの工夫、学習塾等を対象とした説明会等の実施により、本校志願者の増加を目指す。 ④一斉配信メールを利用し、保護者に学校の情報を提供するとともに、学校行事への参加者増を目指す。 ⑤地域の施設に生徒を派遣し、交流を図る。	①意見を学校経営に反映できたか。 ②学校公開来場者数、ホームページアクセス数、生徒・保護者の満足度が向上したか。 ③学校説明会来場者数の向上本校志望生徒倍率1.10以上。 ④学校行事への参加者数が増加したか。 ⑤地域との交流が図れたか。	学校HPや一斉メール等の活用で、中学生や保護者等へ学校の情報を発信できた。 ①評価懇話会での意見を学校経営に生かした。 ②学校説明会での工夫。来場者(組)は昨年とほぼ同数(844組)。HPアクセス数は2,791回/日。 ③学校説明会、塾説明会等で本校志願倍率が1.05倍(12/15調査)に向上(昨年同時期比+0.16P) ④一斉メールを活用し保護者に情報を発信した。 コロナ対応でやむを得ず文化祭、体育祭を中止。 ⑤隣接する保育園と連携し交流を深めた(家庭部吹奏楽部、手話ボランティア部)。	A	本校への外部からの理解、支援の再構築が徐々に進んでいる。現在の取組を一層充実させていく。 ・引き続き地域と連携した取組を行っている。	・志願倍率に回復の兆しが見える。これも貴校が保護者、地域社会への広報活動に一層尽力した結果であると考えられる。 ・コロナ禍で直接的な校外との交流が困難であるが、よく考えて実施している。 ・学校HPもわかりやすくよいと思うが、学校広報誌「風さやか」等も見られるほうが(過去発行分)よいと思う。	